

## NSF2004 概要

JNSA 研究員 安田 直義

2004年10月28日(木)～29日(金)に青山TEPIAで Network Security Forum 2004 (NSF2004) が開催されました。今年は、コンファレンスに展示会を併設する形で実施され、特にコンファレンスは事前申し込みをお断りするほどの大盛況となりました。

## ＜来場者数＞

10月28日(木) 天候／晴れ 624名

10月29日(金) 天候／晴れ 413名

合計来場者数 1,037名



経済産業省の田辺氏



Network Security Forum 2004 (NSF2004) 会場受付

## コンファレンス

コンファレンスは、18ページのプログラムのように2日間でテーマを分けて開催されました。1日目は、政策や運用、調査結果などの報告が中心になり、2日目は技術的な関連が主なテーマとなっています。各々について簡単に内容をご紹介します。

1日目の基調講演として、「情報セキュリティ対策は企業価値を高められるか？－個人情報保護法に向けた準備と情報セキュリティ政策の最新動向－」と題して、経済産業省 商務情報政策局情報経済課 情報セキュリティ政策課 課長補佐の田辺雄史氏からご講演いただきました。

予防偏重社会から事故前提社会へ発想を変えて考えなければならない点を指摘され、そのために前提となる情報セキュリティを取り巻く環境の変化という観点から、政策や実施体制について解説されました。政府組織、重要インフラ、企業、個人を見据えたグランドデザインを描き、実現のスケジュールを作って進めていく構想が述べられました。e-文書法、個人情報保護法を始めとして、経済産業省としての政策が紹介され、特に「早期警戒」を重要課題として挙げられていました。情報セキュリティ早期警戒パートナーシップの一環としての定点観測網の整備や脆弱性情報の取り扱いについての状況などについても言及されていました。最後に組織的および技術的な情報セキュリティ対策について、セキュリティ監査の視点や、暗号アルゴリズム、ISO/IEC 15408の国際相互認証を行うCCRAなどについても言及されました。かなり内容の濃い盛りだくさんの内容でしたが、経済産業省がテーマとして持っている内容が一通り概説されたので、今後の日本の政策について更に多くの議論が行われることが期待されます。

続いて、「個人情報保護対策 総点検 課題と緊急対策－迫り来る個人情報保護法 全面施行にいかに対処すべきか？－」というテーマで、牧野総合法律事務所弁護士法人の牧野二郎弁護士からご講演いただきました。個人情報保護法の実施を目前に控え、企業として考えなければならない点を中心に、個人情報を扱う上での考え方や注意点を詳細に解説されました。対策プロジェクトの

ロードマップの例が示され、企業の守るべき情報の内容や、個人情報とセキュリティの関係など、頭の中を整理することが重要であると指摘されました。対策としての緊急課題や総点検項目などを取り上げ、客観的な判断ができることが大切であると結論されていました。

3番目には「情報漏えい被害の現状」と題して、株式会社損保ジャパン・リスクマネジメントの山本匡氏から、セキュリティ被害調査WGでの調査結果を基にした講演がされました。WGの報告書の第2部「情報漏洩による被害想定と考察」に含まれている「賠償額算出モデル」が注目されていましたが、リスク管理を行う上での情報資産の評価を行う目安として活用できるものなので、今後多方面での活用が期待されます。

4番目は、「ISMS認定/Pマークを早く安く取得するポイント」と題して、株式会社大塚商会の佐藤憲一氏が、セキュリティ関連の認定を取るに際して考えるべき点を整理して話されました。

5番目は、「Identity Based Security実装プロジェクト事例」というテーマでグローバル セキュリティ エキスパート株式会社の宮川晃一氏が、システムを利用するユーザ情報を一元集中管理する観点から解説されました。

2日目は、技術的な内容ではあるけれど、どちらかというとジェネラルな内容のセッションが中心に組み立てられました。

トップバッターは、「ネットワークの自己防衛－コン

プライアンス確保のためのITインフラ－」と題して株式会社ネットマークスの正木淳雄氏が、インフラの現状が不完全であることを前提として、セキュアに利用するための検疫ネットワークという考え方を中心に解説されました。

次に昼休みの一部を使って、緊急特別調査報告として、JNSA政策部会マーケットリサーチWGが2004年8月に実施した「ITセキュリティ対策の導入状況と満足度に関する調査」の概要が報告されました。既に新聞などでも報道されていますが、正式な報告書が間もなく公開される予定です。

2番目に基調講演として、奈良先端科学技術大学院大学の門林雄基先生から「コンポーネントからプロファイルへ－セキュリティ技術開発から浸透への転換－」と言うテーマで、セキュアなシステムを開発する際に、今後考えた方がよいであろう方法論や状況を判りやすく解説されました。インターネットは恐ろしい場所だと脅してみても消費者の信頼を失ってしまうだけであり、技術者としては、マーケット担当者とは違う視点で技術を見るのが自然だし、その上でコミュニケーションが創られる必要があるだろうということが指摘されていました。

3番目のセッションは、「これからのWebセキュリティを考える－ビジネスの生命線を守るには・・・？」と題して、住商エレクトロニクス株式会社の二木真明氏から、これからのビジネスでの生命線となるWebシステムとそ



コンファレンス会場風景

「コンファレンス」TEPIAホール (4F) A会場 ※定員200名	
<b>【A-1】 基調講演 満員御礼</b>	
10:30 ↓ 11:45	「情報セキュリティ対策は企業価値を高められるか?—個人情報保護法に向けた準備と情報セキュリティ政策の最新動向—」 田辺 雄史 (経済産業省 商務情報政策局 情報経済課 情報セキュリティ政策室 課長補佐)
<b>【A-2】 満員御礼</b>	
13:00 ↓ 14:00	「個人情報保護対策 総点検 課題と緊急対策 -迫り来る個人情報保護法 全面施行にいかに対処すべきか?—」 牧野 二郎 (牧野総合法律事務所弁護士法人 弁護士)
<b>【A-3】 満員御礼</b>	
14:20 ↓ 15:20	「情報漏えい被害の現状」 山本 匡 (株式会社損保ジャパン・リスクマネジメント ISOマネジメント事業部)
<b>【A-4】 満員御礼</b>	
15:40 ↓ 16:40	「ISMS認定/Pマークを早く安く取得するポイント」 佐藤 憲一 (株式会社大塚商会 S&S本部 テクニカルソリューションセンター部長代理)
<b>【A-5】 満員御礼</b>	
17:00 ↓ 18:00	「Identity Based Security実装プロジェクト事例」 宮川 晃一 (グローバル セキュリティ エキスパート株式会社 コンサルティング事業部)

コンファレンスプログラム ↑1日目  
2日目→



展示会場風景

「コンファレンス」TEPIAホール (4F) A会場 ※定員200名	
<b>【A-11】 満員御礼</b>	
10:30 ↓ 11:30	「ネットワークの自己防衛 -コンプライアンス確保のためのITインフラ-」 正木 淳雄 (株式会社ネットマークス インターネットソリューション事業本部 マーケティング部 部長)
<b>【A-12】 基調講演 満員御礼</b>	
13:30 ↓ 14:45	「コンポーネントからプロファイルへ -セキュリティ技術開発から浸透への転換-」 門林 雄基 (奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科 助教授)
<b>【A-13】 満員御礼</b>	
15:05 ↓ 16:05	「これからのWebセキュリティを考える -ビジネスの生命線を守るには・・・?-」 二木 真明 (住商エレクトロニクス株式会社 ネットワークセキュリティ事業部 技術担当副事業部長)
<b>【A-14】 スペシャルパネルディスカッション 満員御礼</b>	
「増大するネットワーク脅威の傾向と対策」	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々進化するネットワーク脅威：その実態と傾向は？</li> <li>・複雑化・高度化する対策技術：何を選びどう使うか？</li> </ul> <ディスカッションパネラー> 西本 逸郎 (株式会社ラック JSOC事業本部 取締役本部長) 園田 道夫 (独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 非常勤研究員、NPO 日本ネットワークセキュリティ協会 (JNSA) 研究員) 野々下 幸治 (株式会社シマンテック 法人営業事業部 エグゼクティブシステムエンジニア) 能地 将博 (マカフィー株式会社 マーケティング本部 マーケティング部 部長代理) 松島 正明 (新日鉄ソリューションズ株式会社 基盤ソリューション事業部 マーケティング部 プロダクトマーケティンググループ シニアマネージャ)	
16:25 ↓ 18:00	



のコンテンツを如何に守るか、という観点から、さまざまな注意点が紹介されました。

最後に、スペシャルパネルディスカッションとして、「増大するネットワーク脅威の傾向と対策」というテーマで、株式会社ラックの西本逸郎氏をモデレータとして、園田氏、野々下氏、能地氏、松島氏(所属等は18ページのプログラムを参照)の各パネラーの皆様で、日々進化するネットワーク脅威の実態と傾向、複雑化・高度化する対策技術について何を選びどう使うか?といったテーマでディスカッションが行われました。

今年のコンファレンスは、どちらかというところジェネラルな内容が中心になっていましたが、技術的に深い問題がなくなったわけではなく、最後は技術で裏打ちされなければ問題を解決できないのは、今も変わりありません。とはいえ、技術以外のことも考えなければならないことが多くなってきたということは、インターネットが社会インフラとして定着してきたということでもあるでしょう。社会生活になくてはならない仕掛けとして、どのようにしたら安全・安心・快適に使えるか、ということが今後ますます重要になってくることは確かです。

## 展示会

NSF2004では、久し振りに展示会が併設され、4つのゾーンに分かれて、全25社が参加しました。

- 情報漏洩対策・個人情報保護
- 情報セキュリティ・ネットワークセキュリティ
- セキュリティポリシー・その他
- ウイルス・ワーム・スパム対策

今回は最初の2つのゾーンが圧倒的に多く、世相を反映している感じがしました。また目的意識を持った来場者が多く、かなり実地的な商談も行われたようでした。

展示会場では、オープンシアターというセミナーコーナーが作られ、会員会社の中から製品や会社紹介などを中心としたミニセミナーが開催されていました。こちらでもかなり盛況で、多くの聴講者を集めていました。

## 最後に

2004年のNSFは、セキュリティについて、インターネットや社内ネットワークのトラフィック制御やパケット監視、ウイルスや不正アクセスをはじめとするような技術面だけではなく、個人情報保護法やISMS、ISO15408などの管理運用面の関心も高まっていることが実感できました。技術だけではすまないけれど、技術がないと始まらないことが、ますます実証されてきた感じがします。

来年はまた新たな試みや状況が出てくるかもしれません。会員の皆様からのいろいろなアイデアを頂戴できれば幸いです。



展示会場のオープンシアター